

天照大神のお怒りについて（2012年2月2日霊示） 担当:石田昭 2015年6月28日

- 1 もう一段、あなた方の力を強め、言論力を強め、過てる悪魔の走狗たちを打ちやぶれ。
人間の理解力には言語系(左脳系)と情動系(右脳系)がある。たとえ話での説得力の必要性か？
- 2 (野田総理) 心の中は汚い。銭感勘定ばかりしている。「神の怒りを表す日」は近い。
- 3 この日本は火山列島で、マグマの上に浮かんでいる国です。私達が聖なる仕事を止めたならば、かつて滅びた国と同じようになる。尋常でない事が近づいている。ムー、アトランティスの沈没のこと。地殻の構造論をリバティー誌も気付いていない。竹内均霊も気付かない。
- 4 時の権力に媚び、自らの生存のみを汲々として追い求める小人物の固まりが聖なるものを穢すならば、それなりの反作用が来る。胃の内部のピロリ菌が威張っているようなものか。
- 5 明治維新は、王政復古と革命が一体となったものだが、徹底したものにならなかった。維新の志士は身分が低かったので、高いものを倒す事が不遜に見えた。その贖罪感から王政復古を唱えた。(この不徹底な近代化)が戦争の失敗に繋がった。明治維新の遣り残し
- 6 単なる王政復古ではなく、新しい未来社会を創るための宗教、世界の国々へも福音を伝え得る宗教を基にして、この国を作り変えようとしている。日本人はムーの最優秀種族の子孫
- 7 明治維新では急いだために、革命として不徹底なものに終わった。仏教をはじめ諸宗派を排撃した点は私自身にも本意ならざるものがある。宗教は本当は一つのものである。
- 8 この点が不徹底であった、もっと広い心をもって世界の設計が可能であったはず。今この国を起点として、新たな世界的繁栄を作り出していきたい。リバティー編集長本に記述なし。
- 9 今から2020年までの間、あなた方にとって「激しい戦いの季節」、それから先に「ゴールデンエージ」が来る。それは次なる人の使命。しかし、沈没もボールシフトもありえる。
- 10 年行きたる者たちは「最後の決戦」に挑むことを心の底から願います。自分の命を顧みず、完全燃焼して戦って欲しい。今、職員は会社を作り、人生を全うできればいいと考えている。
- 11 先の大戦で敗戦を喫したが、本当の意味でこの国が敗れたわけではない。時間が経てばたつほど、日本がやろうとしたことの意味は重く理解される。いくつかの手違いで不幸があったが、大東亜共栄圏が成立していたら、環太平洋地域の繁栄が訪れた。
- 12 日本は中国やロシアの共産化を防ぐ力を持っていた。(2012年12月の霊言:「アメリカは戦う相手を間違えた、今やっている事は戦前の日本がやっていたこと、70年遅れでアメリカは今やっている。彼らは“知恵遅れ”なのです。バカなのです!アメリカが太平洋に来る権利などないのです!」)
- 13 先の大戦は、中世以降に起きた、過てる人種差別的帝国主義との戦いであった。それを終わらせたが、民族主義とか血統主義の問題は人類が乗り越えなければならない壁であることを(転生輪廻の思想で)教えなければいけない。オバマの激怒、民族、宗教問題の調和士
- 14 自国が貧しい原因を「他国の侵略のせいだ」と言って、日本に押し付けてくる姿勢は、傲岸不遜の度が過ぎている。日本はもっと、「気概のある国家」に変身せよ。神韻縹緲!
- 15 日本のどこに住もうと、地震・津波から逃れることはできない。「神意」に気付いてやるべきこと、なすべきことをなせ。神の怒りからは逃れられない。主治医は何でもできる。
- 16 「神罰」で目を覚まし、「すぎるべき尊いもの」があるのではと思わせる縁である。
- 17 「過去世」を明かすのは、位階や冠を与えるためではない。「命を捨てよ」と言う意味。(2012年12月の霊言:マスコミを変えるだけの大きな力を持って。命をかける人が一人出れば国論を変えられる。その一人が20数年経っても出てこない。計画が終わろうとしている。2015年6月の大日靈貴霊言:サラリーマン化していてもう駄目。マスコミに勝て!勝てば政治は動く。今のままでは無理。)